



第3戦 VS. 法政大 ORANGE

SPRING GAME 2026年6月7日(日) K.O13:00 天候: 曇 場所: 法政大学川崎総合グラウンド

チーム	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
法政大 ORANGE	7	14	0	7	28
明治大 GRIFFINS	0	7	7	7	21

フルメンバーとは言えない状態で臨んだ法政大戦。

※(1)(2)…は学年、①②…は写真

前半は法政オフェンスに0対14と差を広げられる苦しい展開。パスとランを繋いで、#31RB鎗田悠輔(2)が飛び込み、タッチダウン(TD)①で7点を返したものの、直後にキックオフ・リターンTDを決められ、7対21で前半を折り返した。

後半、ディフェンスの#9LB関拓真(3)が連続タックル②で流れを引き寄せると、オフェンスも奮起。#2WR後藤航太郎(4)への40ヤードのロングTDパス③で21対14と追い上げ、続く4Qも鎗田のランと #14RB八木樹己(2)へのパスでタッチダウン④、21対21の同点に追いついた。

その後の法政の攻撃に守備も粘りを見せたが、再び勝ち越され、28対21。2度の4thダウン・ギャンプルで、#6WR後藤珠(3)へのパスを成功させる⑤粘りも及ばず、最後はインターセプトされ試合終了。

前半は苦しい展開となったが、後半は攻守ともに立て直し、一時は同点に追いつく見事な粘りを見せたグリフィンス。惜しくも勝利には届かなかったが、最後まで諦めず戦い抜く姿勢が光る一戦となった。今後の巻き返しに期待したい。



ALL OUT

Go ! GRIFFINS



チーム	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
神戸大 RAVENS	0	0	7	0	7
明治大 GRIFFINS	7	17	7	10	41

曇り空が広がり、蒸し暑さを感じる中、今節も一部選手を欠きながらチーム総力戦で関西ディビジョン1の実力校、神戸大学レイバンスに挑んだ。

※(1)(2)…は学年、①②…は写真

前半は#31RB鎗田悠輔(2)のラン、#13QB関根那瑠(2)から#2WR後藤航太郎(4)へのサイドラインパスでシリーズを繋ぎ、#25RB牛島郷(4)のロングキャリアー①、鎗田のラン、#6WR後藤珠(3)へのパスがテンポよく繋がり、開始4分で鎗田が先制タッチダウン(TD)②。守備も#52LB中敬進(4)、#9LB関拓真(3)らのタックル、#99DL儘田怜(3)③、#44海津大稀(2)の連続QBサック④で相手攻撃を封じた。

続く攻撃では、関根から#10WR城草太(3)への40ヤード・ロングパス⑤を起点に鎗田が追加TD。さらに#4LB大石聡(4)がインターセプトTD⑥を決めた。#36K/P石山健太(2)の36ヤード・フィールドゴール(FG)⑦も加わり、前半を24対0で折り返した。

後半に入ると、関根から後藤(航)への36ヤードTDパス⑧でリードを拡大。海津、#11DL水野俊輔(4)、儘田らがQBサックやタックルで相手を圧倒した。牛島、#83RB佐川賢都(2)⑨のランと、#88TE田原和春(4)、#FB47小山田匠吾(4)らへのパスで攻撃の厚みも見せた。鎗田の3本目のTDの後、石山のFGも決まり、41対7の大差で試合を締めた。攻守両輪でチーム全員が躍動した充実の一戦。

次戦も全員の力ALL OUTでフィールドを駆け抜けてほしい。

第4戦 VS. 神戸大 RAVENS



ALL OUT

Go! GRIFFINS



チーム	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
立教大 RUSHERS	0	0	14	3	17
明治大 GRIFFINS	7	0	0	0	7

※(1)(2)…は学年、①②…は写真

立教のレシーブで試合開始。じりじりと自陣へ攻め込まれるも、ディフェンスが踏ん張って攻守交代。攻撃に転じたグリフィンは、#31RB 鎗田悠輔(2)のラン①で敵陣へ進出、4thダウン・ギャブルを仕掛けるが、相手ディフェンスに阻まれた。

その後、#32DB立田優希(3)のナイスカバー②で相手をパントに追い込み、再び攻撃権を獲得。#25RB牛島郷(4)③・鎗田のランと、#47FB小山田匠吾(4)へのパス④でテンポよく前進すると、最後は#2WR後藤航太郎(4)がラン・アフター・キャッチで先制タッチダウン⑤を決めた。しかし、その後は両チームとも譲らない一進一退の攻防が続き、グリフィンは追加点を奪えないまま前半終了。7対0でリードして試合を折り返した。

後半に入ると、前半の勢いから一転、思うように攻め込めず、徐々に流れを立教へ渡してしまう展開に。相手のQBランで7対14と逆転を許す。その後も相手にFGを決められ、パスとランもつながれ、7対7の同点とされると、さらにミスや反則も絡み7対17。後藤(航)へのロングパス⑥や牛島のランで敵陣へ攻め込むも得点には至らず、最後は4thダウン・ギャブルに挑んだがサックを受け、そのまま試合終了となった。

前半はラン・パスのバランスが取れた攻撃と粘り強いディフェンスで立教を上回りながらも、後半は流れを相手に渡す悔しい結果となった。それでも全日本選手権を見据えた1Q15分の試合を最後まで戦い抜いた選手たちの姿は、次戦への大きな期待を感じさせる一戦だった。

第5戦 VS. 立教大 RUSHERS



ALL OUT

Go ! GRIFFINS



チーム	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
専修大GREEN MACHINE	3	7	0	13	23
明治大 GRIFFINS	7	10	3	0	20

春の最終戦は、控え選手や下級生を中心に構成したJV(Junior Varsity)戦。BIG 8の専修を相手に敗戦、という結果から見えた課題は多いが、各選手の成長を感じる一戦となった。
※(1)(2)…は学年、①②…は写真

明治のキックオフで試合開始。#94DL中里礼温(4)のタックル①で相手にロスを与え、#3LB/P岡田直也(3)のパスカット②、#44DL/LB海津大稀(2)のブロック③で前進を許さずディフェンスが踏ん張る。#21DB高橋優太(4)のリターン④で前進し、自陣50ヤード付近からの攻撃に。#31RB鎗田悠輔(2)のラン、#30QB田中香大(1)のQBラン⑤でファーストダウンを重ね、QBランで敵陣7ヤードへ進出すると、鎗田のランでタッチダウン(TD)⑥。7対0で先制した。

その後、自陣6ヤードまで攻め込まれる場面もあったが、中里のタックルなどで踏みとどまりFGの3点に抑え7対3。#82WR松浦豪人(2)のリターン⑦で敵陣39ヤードから攻撃を再開し、ランとパスで前進。敵陣15ヤードまで進んだところでファンブルを敵に拾われるが、#24LB北本玲央(2)のインターセプト⑧で攻撃権を奪還し、敵陣4ヤードから#25RB牛島郷(4)のTD⑨で14対3とリードを広げた。岡田のタックルも光り、パスやランで攻めるも、パントに終わる。その後、じりじりと攻め込まれ、自陣20ヤードから中央を走られて14対10。攻守交替で田中(香)から#46TE後藤一真(3)へのパス⑩とQBランで敵陣へ進み、反則で後退する場面もあったが、牛島のランで前進。#36K/P石山健太(2)のフィールドゴール(FG)⑪が決まり、17対10で前半を終えた。

後半、#12QB堀切陸玖(4)から#14WR八木樹己(2)へのパス⑫、#83RB佐川賢都(2)のラン⑬、ミドルパスで攻め込むが、FGを外し攻守交代。海津、#52LB中敬進(4)のタックル⑭で相手の攻撃を止め、敵陣から攻撃を再開。#87TE石井碧(1)へのパス⑮で前進し、石山のFGで20対10とリードを広げたが、パントのスナップミスがセーフティとなり20対12。さらに自陣33ヤードまで攻め込まれ、海津のタックルで一度は押し返したもののFGを決められ、20対15まで追い上げられた。残り時間わずかというところでも相手RBのロングランを許して逆転され、最後は2点コンバージョンも決められて試合終了。

この試合では出場機会が少なかった選手たちが躍動した。秋に向けたチーム全体の底上げによる選手層の厚みと可能性を感じられる、これからが楽しみになる試合だった。

第6戦 VS. 専修大 GREEN MACHINE



ALL OUT

Go ! GRIFFINS



仲間の後押し



証を挙げて



エア・グリフィンズ!



OLが開く道



混戦



球筋

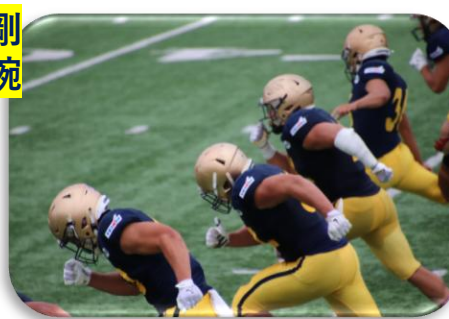
ナイス
ショット



タックル



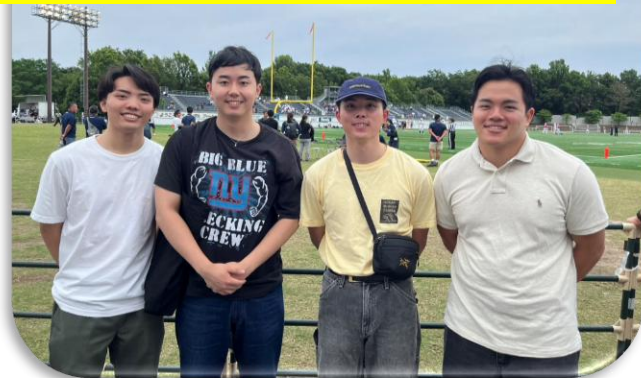
剛腕



With thanks to 写真係



OB（右から）館、水谷、大串、齋藤の各氏。
館氏「ディフェンスの集まりがいい。がんばって」
（神戸大戦後、アミノバイタルフィールドで）



スタッフ&OB



試合前、ウォーターの準備

